

なるが如く感ぜらるるイトヒキアヂの元氣能く游泳し毫も敵を恐れざるが如きを見ては、通常の見解にては解釋するに苦まざるを得ず。
(田中茂穂)

●釜山のホヤ 嘗て桑野理學士が朝鮮釜山に於て市中にホヤを販賣し居るが其種名を詳にせずとは本誌にて報せられたる所なるが此地の人の食用に供するは奥州金華山附近より以北、青森北海道等に産するものと種にして *Halocynthia roretzi* v. *DRASHI* なり其價一個五厘位なりと。多くは婦人が籠に入れ市街の交又點等に於て販賣し居ること恰も日本人が桃や梨子を賣るが如し。
(飯塚 啓)

●邦語昆蟲書の蟻の學名 蟻の分類は他の昆蟲に比して困難なる爲めなるか邦語の昆蟲書には學名の記し無きもの多く、假令是有るも誤謬ならずやと思はる者あり。次に其等の學名につきて予の考査せる所を記す。敢て予の考のみが正しとは限らざるべきも讀者の參考にはなるべし。初めに記せるは予の考へて正しと思ふ者にて、次に記すは他書に記す所と其出所なり。

一 *Myrma* (*Polyrhachis*) *Kamellidens* (SMITH)

Polyrhachis kamellidens Sm. トゲアリ 松村日本昆蟲學二〇八頁。同續千蟲圖解三卷一四二頁。村上万太郎、動物學雜誌第十一卷二〇八頁。深井武司、昆蟲世界第十二卷二七一頁。全第十三卷一〇七頁。

此等に記されし學名は正しきも圖及び記載は不充分なり。松村博士が三對の刺ありと記せしは己に村上氏も記

せし如く誤なるも若し胸部に三對と云ふ意味ならば正しくして四對とせしが誤なり。何となれば第四番目のものは胸部にあらざればなり。松村博士の續千蟲圖解中の圖には腹柄の刺の鈎狀に屈曲せる狀を寫さず、且つ解説にも記されず、若し此圖を正しきものとなせばこは決して *M. kamellidens* にはあらず、多分圖の誤りなるべし。

二 *Myrma* (*Myrma*) sp.

Polyrhachis tyrannicus Sm. ハイイロトゲアリ 松村續千蟲圖解第三卷一四三頁。

P. tyrannicus は SMITH が支那より記載せしものなるも其後の蟻類學者何等附加する所なく吾人には明確なるものにあらず。且つ WHEELER, FOREL 兩氏の臺灣蟻類を記すに際しても何等云ふ所なし。松村氏は臺灣に普通なるかに記されしより見るに此等兩氏又は予の標本中にもあるべきかと思へど未だ發見されざるは審しき事なり。博士の記載に従へば *M. latona* 又は *M. wolfi* なるか。而して或は其内の一は *tyrannicus* に名を讓るべきものなるかは知らざれども元記載の不完全は何等の論究なくして記し得べきにはあらざるべし。

三 *Formica* sp.

Formica rufa L. アカアリ 松村續千蟲圖解第三卷

此の記事と圖の不明なるは己に論せし所なり。

四 *Camponotus herculeanus obscuripes* MAYR.

Camponotus ligniperdus L. オホアリ、 松村日本昆蟲學二〇八頁、同續千蟲圖解第三卷一四二頁。

本種を始めて記せし F. SMITH (1874) は是を *C. ligniperda* なりとせり。然し MAYR (1878) は SMITH の見たりし標本及び他の日本産標本を見て肢の色其他にて全く異れりとなし其變種となせり。其後學名に就ては *ligniperda* の變種を *herculeanus* の亞種となすとの差はあれど兎に角異なる者となすには一致せり。其の差は肢の一は rostrat にして胸部腹柄腹部等一節と同様なるに反し日本産種は胸部等の bellrot his rothbraun なるに肢は全く異りて dunkelbraun なるにありとせり。色の事は正確なる現し方に困難なれば蟻類分類の大家 EMERY の語を其儘用ひたり。勿論 MAYR も大同小異の語にて述べ居れり。而して松村博士の記さるる所にては *ligniperda* にあらずして *obscuripes* なる事は明かなり。

尙茲に一言すべきは多分誤植とは思へど命名者の名に續千蟲圖解にては「と記されたり。「は LINNE の場合に用ひられて LATREILLE の場合には用ひず。吾人の知る所にては *ligniperda* の命名者は LATREILLE なり。

五 *Camponotus heerculeanus-japonicus* MAYR:

C. marginatus Latr. クマアリ、松村日本昆蟲學二〇八頁、名和、第
一回全國昆蟲展覽會出品目錄九頁。

C. marginatus (今は *C. fallax* を正しとす) の一亞種二變種本邦に産すれども普通クマアリと云ふは前記の名のものなり。但し記事簡單にして何者なるかを明確に斷言は出來ず。

六 *Lasius fuliginosus* LATREILLE

クロアリ松村日本昆蟲學二〇八頁。同續千蟲圖解第三卷一四四頁。
ヒメクロアリ名和全國昆蟲展覽會出品目錄九頁。

前者の記事は正しと想像して可ならん、後者は記述なければ唯學名によりて和名の異れを茲に示すのみ。

七 *Plagiopsis longipes* JERDON?

Plagiopsis longipes Jerd. アンナガキアリ松村臺灣甘蔗害蟲篇六頁、

學名の誤植(?) 餘り甚しきも圖の概形より上記のものかと想像す。

八 *Aphaenogaster familiaris* SMITH

キアリ、松村日本昆蟲學二〇八頁

簡單なる記載なれど正しと思はれざるにあらず。

九 ? (不明)

Tetramorium guineense F. ハラゲロイヘアリ松村臺灣甘蔗害蟲篇

六七頁。

記載と圖にては正しきか否か不明なり。且つ、文中に『兵蟻は職蟻に酷似すれども體稍々大きく大腮は發達し胸脊膨起す、腹部は紡錘狀をなす第二腹節の基部は黃褐』の記事あはる不審の點なり。吾人は不幸にして未だこの

Tetramorium 屬に兵蟻ある事を知らず。予の見得る限りのものを見たるも、さる記事は見出さざりき。或は雌蟻の誤植かは知らざれども之は餘りに想像に過ぎたる感あり。兎に角文字を信すれば二節蟻亞科中の兵蟻を有する *Phaenole*, *Phaenolegaster*, *Solenopsis* 職蟻に大小ある *Messor*, *Holcorymbus* 等の者とならざるを得ず。又其記

載を一々見るも現今の蟻類の記載の用語とは全然交渉なき事のみ記しあるを以て其何種を指せるかを想像する事困難なり。

十 p (不明)

Myrmoteras kuonika Mats. クロイハキアリ 松村續千蟲圖解第四卷一九一頁。

同書には三ヶ所とも凡て *Myrmoteras* と記しあり。然し子の知る限りにてはかゝる屬名無きが如し少くとも一九一一年の初までには學者によりて認められたるかゝる屬名なし。依りて思ふに *Myrmoteras* の誤なるか、予は止むなく *Myrmoteras* の誤植なりとて玆に論ずる事とす(一九一一年以後の蟻の論文は重要な凡て見たりと思へど或は見落しあるやも知れず)。*Myrmoteras* なる屬は Forel. の一八九三年に命ぜし所にして (Camponotinae (クマアリ亞科) に *Myrmoteratii* の一属を形成する程に特異の屬にして Ponerinae (ハリカリ亞科) 中の一區 *Odontomachii* に系統上關係を有す者と思はるゝ興味ある屬なり。

偕て今 *Myrmoteras* の屬徴(不幸にして Forel. の原記載を見得ざるも BINGHAM の記す所とて是程誤はあるまじと思へば是に據る)と松村博士の記事圖畫とを比較するに種々の差異を見出すなり。

Myrmoteras (BINGHAM に據る) 松村氏の記事圖畫

一、三個の單眼頭頂に有り。單眼なし(圖に記されず又

記事中に何も記されず)

二、複眼は甚だ大なり。複眼は小なり。
三、大顎は頭の前縁の兩側 大顎は頭の前縁の中央に位置す(眼を考に入 扁し決して兩側隅に生ぜれず)。
りとは見えす。

先づ大體にて上記の如き差あり。然して是等の差は屬を異にするか又は屬徴を全然變更して始めて編入し得べきものなり。然して續千蟲圖解の圖を見れば(蟻の種類を同定する爲めには甚だ不完全なるものなれど)其概觀甚だよく *Odontomachus* に類し若し其學名附し有らざりしならば予は直に是を *Odontomachus* と思ふべし。而して前記せし *Myrmoteras* に入れんとするには適合せざる個條の如きは *Odontomachus* の屬徴なるが故に何等の異論の起る恐なし。且つ其頭形大顎の頭長より短かき點、表面の隆條など又是を助くるものなり。只一の重大なる點あり、Camponotinae 々 Ponerinae この別かるゝ點は Camponotinae は腹部(眞の形態學上より云へば腹部の第三節以下の部分の事にて外見上は是のみが腹部の如き觀ある部分の事なり従て次の節の算へ方も眞のものより初めの二つを除きての事なり)初節と次節との間に緊縮せる部分全くなきも Ponerinae には緊縮部ある事なり。故に若し是有れば *Odontomachus* とすに何等の困難なきも全く是無ことすれば如何に其概形類似すればとて *Odontomachus* にはあらざるなり。松村博士の記事及び圖は此の點不明なり。故に予は何等の斷定を與へ得ざれども

假令 (amphibine なり) としても *Mymnoterus* にあらざる事は明確なる事實なり。而して *Odontomachus* の緊縮部は甚しく顯著ならざる事は公知の事實なれど甚しく顯著ならざると無とは全く異れり。

予は松村博士の *Myrmoteras Kuvoivue* の記載が FOREL の記せし *Odontomachus monticola* var. *fomosa* に甚しく類似せるを感ず。只遺憾なるは松村博士の記載は現今蟻類學者の常用する記述の方式とは全く交渉なく、蟻類の記載として必要欠ぐべからざる條項を殆んど全部省略しあるが爲めに精密なる比較をなし得ざる事なり。分類學は概形の漫然たる記載をなすべきものにあらず。分類學上最注目す可き點は類により科により必ずしも一致せず。其相應の記述をなさざれば價值少きものなる可し。蟻には蟻の分類に必要な點定まれり。其の點の記載をなして初めて意義あり。只漫然其の形態の記載をなすことも殆んど價值なき事往々にして之有るべし。

其他二三の書に蟻の記述はあれど、學名を附記せず只僅かに屬名を附記する位なれば、茲に記さず。又日本昆蟲學より不必要と思ふ一種は略せり。

(矢野宗幹)

●蛇の防禦腺

本誌第二〇卷二六〇—二六二頁に無毒蛇の防禦器なる表題にて東明小兵二氏のヤマカ、シに就ての觀察あり即ち肛門より白色濃厚なる液狀糞尿を脱出し、酷烈なる一種の臭氣を發散せりとありたり。今夏ワイルダーの『人體の歴史』(一一〇頁)を讀みしの中に

皮膚腺の條に、蛇にては排泄腺特別によく發達し嘔吐を催さしむる如き激臭ある乳白色の液と分泌し、以て敵を防禦するに用ゆとあり、東明氏の糞尿と記載されしは觀察の不完全なることにて或は皮腺よりの分泌物には非ざりしか、茲に見當りしまゝ記して識者の高教を乞ふ。

(谷津直秀)

●沖繩群島を通過する鷹類は果して何種なるや

沖繩に旅行せられし諸氏は彼地に於て毎年秋季に鷹の群をなして遷移する事に關し種々の珍談を聞かれしならむ。該地に住む人の談に依ると、鷹の渡る季節になると皆樹上に登りて鷹の疲れて休息するを窺ひ之を捕獲する事甚だ容易なりと云ふ。彼のハブも其季節を知るもの歟、往々樹上に登りて居るを目撃すと云ふ。久しく八重山に在住せし知人の談に毎年十月初旬寒露の季より渡り初め其方向は北より來り西方に飛び去ると云ふ。然らば九州より大島群島を経て沖繩諸島より八重山列島を過ぎ臺灣に至り夫より馬來群島印度と點々散在せる島嶼を傳ふて休息しつゝ遷移するものならむ歟。昔時宮古八重山列島の如き交通不便の離島に於ては捕獲せる鷹の脂肪を貯へ燃火用に供し肉は食料となせしよし、以て其遷移する數の夥多なるを想像するに足る。然るに従來沖繩地方に於て捕獲採集せられし鷹の種類は割合に少なく、既刊の報告雜誌等に就て見るにサシバ、ハヤブサ及ズミ或はエツサイの三種は石垣及沖繩群島に於て採集せら